

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲里 効	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>入門的な内容になるが、植民地主義、サンフランシスコ体制、そして二つの戦争（朝鮮戦争とベトナム戦争）を取り上げ、アジアと日本／沖縄の過去と現在を決定づけた出来事の意味を再考していく。</p>	<p>私たちはどこから来て、どこへ行くのかをつねに意識した内容になります。授業自体がアジアに対する新しい認識の窓を開いていく旅のような経験になればなおよいでしょう。</p>
到達目標	<p>アジアと日本／沖縄の関係史の起点にして原点への理解の入口を発見する。アジアと日本の結節点にして交差点でもある沖縄の位置の認識へと至る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	近代日本の植民地主義①（琉球処分と台湾「領有」）	参考文献①と配布プリント
	2	近代日本の植民地主義②（韓国併合と中国侵略）	同上
	3	近代日本の植民地主義③（南洋群島と委任統治）	同上
	4	大日本帝国の崩壊とポツダム宣言	プリント
	5	「サンフランシスコ体制とは何か」①（「朝鮮」処理をめぐって）	参考文献②と配布プリント
	6	「サンフランシスコ体制とは何か」②（「台湾」処理をめぐって）	同上
	7	「サンフランシスコ体制とは何か」③（「千島」処理をめぐって）	同上
	8	「サンフランシスコ体制とは何か」④（「南洋群島」「南沙・西沙諸島」処理をめぐって）	同上
	9	「サンフランシスコ体制とは何か」⑤（「琉球」処理をめぐって）	同上
	10	アジアの戦争（朝鮮戦争）①	プリント
	11	アジアの戦争（朝鮮戦争）②	同上
	12	アジアの戦争（ベトナム戦争）①	参考文献③の第1部
	13	アジアの戦争（ベトナム戦争）②	参考文献⑤の序章・11章
14	アジアの戦争（ベトナム戦争）③	参考文献⑤の6章・8章	
15	ベトナム戦争と沖縄①	参考文献④の第4章	
16	ベトナム戦争と沖縄②	同上と配布プリント	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。随時配布するプリントを使いながら進めるが、以下の文献を参考にする。①「ポストコロニアル」小森陽一（著）岩波書店②「分割された領土」進藤栄一（著）岩波書店（現代文庫）③「ベトナム戦争と平和」石川文洋（著）岩波書店（新書）④「沖縄の70年」石川文洋（著）岩波書店（新書）⑤「ベトナム報道」日野啓三（著）講談社（文芸文庫）</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え 毎回出欠確認を行う。欠席した場合は翌週まで出欠届を提出すること。配布したプリントは常時持参すること。</p>		
評価	<p>レポート（70%）期末提出を原則にするが、中間にも課す場合がある。 平常点（30%）無断欠席が5回を越えたときは原則として「不可」となる。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業で獲得したアジアに対する基礎的な理解から、多様な課題を見つけ出し、同時に、現実アジアで生起する諸問題へ対応していく能力を高めていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア研究Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲里 効	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 映像と文学作品を通してアジアの近現代の光と影について入門的な視点を培う。そのために＜台湾＞や＜香港＞、そして＜在日＞などの周縁地域の植民地体験と冷戦期の分断を生きた体験からポストコロニアルな身体まで探訪していく。	メッセージ 私たちはどこから来て、どこへ行くのかをつねに意識した内容になります。＜方法としてのアジア＞を探し出していく旅のような経験になればなおよいでしょう。
	到達目標 中心ではなく周辺から、＜影のアジア＞から眺めると歴史の風景が違った見え方をすることを理解する。歴史認識にとってく見ること、つまり映像資料が果す意味と役割を発見する。	

学びの準備	到達目標 中心ではなく周辺から、＜影のアジア＞から眺めると歴史の風景が違った見え方をすることを理解する。歴史認識にとってく見ること、つまり映像資料が果す意味と役割を発見する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アジアの植民地地図	配布プリントを読むこと
	2	ポストコロニアル香港①	参考文献①の第1章
	3	ポストコロニアル香港②	参考文献①の第2章
	4	ブルース・リーの身体表現＜功夫＞	映画『ドラゴン怒りの鉄拳』
	5	ジャッキー・チェンの身体表現＜酔拳＞	映画『レッド・ドラゴン』
	6	ポストコロニアル台湾①	参考文献②の第2章・3章
	7	ポストコロニアル台湾②	参考文献②の第4章・7章
	8	『非情城市』と＜2・28事件＞①	映画『非情城市』と配布プリント
	9	『非情城市』と＜2・28事件＞②	同上
	10	李香蘭と＜満州＞	参考文献③の第3章
	11	李香蘭と＜大陸3部作＞	同上
	12	＜南京＞という問い	配布プリントを読むこと
	13	金時鐘と＜植民地体験・在日＞「クレメンタインの歌」①	参考文献④第1章
	14	金時鐘と＜4・3事件＞「クレメンタインの歌」②	参考文献⑤の第6章
	15	『パッチギ』と＜イムジン河＞	映画『パッチギ』と配布プリント
16	『パッチギ』と＜在日＞	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時配布するプリントを使って進めるが、以下の文献を参考にする。①「香港」倉田徹・張或啓（著）岩波書店（新書）②「台湾」若林正文（著）筑摩書房（ちくま新書）③「李香蘭と原節子」四方田犬彦（著）岩波書店（現代文庫）④「『在日』のはざま」金時鐘（著）平凡社（文庫）⑤「朝鮮と日本に生きる」金時鐘（著）岩波書店（新書）。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え 毎回出欠確認を行う。欠席した場合は翌週まで出欠届を提出すること。配布したプリントは常時持参すること。
-------	--

学びの実践	評価 レポート（70％）期末提出を原則にするが、中間にも課す場合がある。 平常点（30％）無断欠席が5回を越えたときは原則として「不可」となる。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 植民地主義／ポスト植民地主義的な歴史と身体に対する理解から、アジア地域との新しい関係を想像し創造していく能力を高めていく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アメリカ研究	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐藤 学	1年	sato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とする。良く知っているはずの、最も重要な国であるが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者であるが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりである。	知っているようで知らないアメリカ合衆国のホントの姿を知ろう

到達目標	単純な先入観を超えたアメリカ観を得るための基礎を知る。
------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」	
	2	政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党	
	3	政治の姿：続き	
	4	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿	
	5	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、大学の役割	
	6	アメリカで暮らす（1）：住宅	
	7	アメリカで暮らす（2）：教育	
	8	アメリカで暮らす（3）：医療・生活環境	
	9	アメリカで暮らす（4）：食生活ー1	
	10	アメリカで暮らす（5）：食生活ー2	
	11	アメリカのメディア：新聞、雑誌、TV, インタネット	
	12	公民権運動：アメリカ合衆国の栄光	
	13	軍の国、銃の国：安全保障、国内治安	
14	日米関係を考える		
15	世界の中のアメリカ合衆国：外交		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 使用しない。授業レジュメと資料を配布する。 講義内で適宜紹介する。		
	学びの手立て 新聞、雑誌で、アメリカ関連の記事を読むこと。		
	評価 レポートを課す。出題については、事前に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日常生活、勉学の中で、アメリカに関する事柄をより明瞭に理解できる基礎知識を身に付ける。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルサムニ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルサムニ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニ イbrahim アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの 実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅰ（結婚する前の男女の関係）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅱ（結婚するまでの段階）	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅲ（婚姻届の内容）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 結婚Ⅳ（披露宴、衣装）【中間テスト】	
9	イスラム教後のアラブ社会への影響 出産（男・女が生まれた場合の違い、儀式等）		
10	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅰ（離婚の意味・段階）		
11	イスラム教後のアラブ社会への影響 離婚Ⅱ（離婚の原因、慰謝料等）		
12	イスラム教後のアラブ社会への影響 女性のあり方（母親、主婦、妻として）		
13	イスラム教後のアラブ社会への影響 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由等）		
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 日常生活（紅茶と水たばこの雑談会、集会、礼拝等）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など	特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。	
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニイ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など	特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。	
学びの手立て	講義の私語、居睡り等については注意する。		
評価	中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニー イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
	学びの手立て 講義の私語、居睡り等については注意する。		
	評価 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

※ポリシーとの関連性 アラブ地域に対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アラブ研究Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	エルムニイ イブラヒム アリー	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。	グローバル化が進む現在、アラブ地域を理解はすることは大変重要になってきました。本講義は初学者にとってもわかりやく面白く教えます。この講義をきっかけにアラブ文化・社会に興味をもち理解を深めると嬉しいです。わからないことがあれば気軽に質問してください。
到達目標	イスラム教を正しく理解できる。 アラブの文化・社会を正しく理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	授業の予習・復習を行うこと
	2	イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）	配布資料を必ず読んで理解すること
	3	イスラム教の発生Ⅰ（発生した状況、イスラム教の経典コーラン）	
	4	イスラム教の発生Ⅱ（ムハンマド予言者の教え「スンナ」、アラブの22カ国）	
	5	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅰ（病気の時、心の支え、占い）	
	6	イスラム教後のアラブ社会への影響 生活習慣Ⅱ（死亡）、アラブの祭りや祝い	
	7	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの祭りや祝い（断食、ラマダン等）	
	8	イスラム教後のアラブ社会への影響 文化と教育の関わり 【中間テスト】	
	9	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅰ（宗教の意味、予言者の数）	
	10	イスラム教後のアラブ社会への影響 イスラムと他の宗教Ⅱ（各宗教の予言者、聖書）	
	11	イスラム教後のアラブ社会への影響 一夫多妻とイスラム女性の服装	
	12	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅰ（テロ問題）	
	13	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅱ（パレスチナ問題①歴史的背景等）	
14	イスラム教後のアラブ社会への影響 アラブの文化と諸問題Ⅲ（パレスチナ問題②子孫とムゼー）		
15	アラビア語Ⅰ（アラビア語の特徴、アルファベット等）		
16	アラビア語Ⅱ（挨拶）【期末テスト】		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。必要に応じてコピー資料を配布する。また、ビデオ等の画像等も使用する。		
	学びの手立て 講義の私語、居睡り等については注意する。		
	評価 中間テストと期末テスト実施し、出席状況と受講態度で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてアラブ研究Ⅱを受講し、アラブ地域の理解を深め、卒業後もこれらの地域に関心をもつ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	当銘 学	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。	国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。
到達目標	国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	貿易の基礎理論(国家間の財の移動)	参考文献①の第5章の2節
	3	自由貿易と貿易利益	参考文献⑤の第2章
	4	経常収支(国家間の資金移動・資金調達)	参考文献①の第3章の2節
	5	対外直接投資の基礎理論	参考文献①の第7章の2節
	6	貿易政策の基礎理論	参考文献①の第6章の7節
	7	戦後の国際経済秩序	参考文献①の第1章の2節
	8	同上(IMF体制・金本位制)	参考文献④の第8章の2節
	9	米国の戦後復興支援と欧州・日本経済	参考文献③の第8章の2節・3節
	10	国際収支上の直接投資の理論	参考文献③の第4章の2節・3節
	11	変動相場制・為替変動決定論	参考文献②の第2章
	12	国際経済の変貌と日本経済	参考文献②の第2章
	13	通商問題の変遷	参考文献①の第6章の1節
14	地域経済統合	参考文献②の第3章の1節	
15	国際経済の現状と課題	参考文献②の第4～第7章	
16	総括、期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。	
学びの手立て	履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。		
評価	小テスト(計6回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	国際経済の歴史的な変遷の概観を通して、国際的な経済事象を理論的枠組みの中で捉えることができる。さらには、講義を通して国際社会における現代の日本経済の位置づけと将来への展望も見えてくることになるでしょう。	国際経済の今に至るこれまでの国際経済の枠組み(貿易秩序・金融体制)の変遷の大きな流れを掴み、そして今に生きる私たちの生活に直接的・間接的に影響を及ぼす国際的な経済事象を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を試み国際経済を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。
到達目標	国際経済に関連する時事経済を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説を読んで大まかではあるが程度理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	貿易の基礎理論 (国家間の財の移動)	参考文献①の第5章の2節
	3	自由貿易と貿易利益	参考文献⑤の第2章
	4	経常収支 (国家間の資金移動・資金調達)	参考文献①の第3章の2節
	5	対外直接投資の基礎理論	参考文献①の第7章の2節
	6	貿易政策の基礎理論	参考文献①の第6章の7節
	7	戦後の国際経済秩序	参考文献①の第1章の2節
	8	同上 (IMF体制・金本位制)	参考文献④の第8章の2節
	9	米国の戦後復興支援と欧州・日本経済	参考文献③の第8章の2節・3節
	10	国際収支上の直接投資の理論	参考文献③の第4章の2節・3節
	11	変動相場制・為替変動決定論	参考文献②の第2章
	12	国際経済の変貌と日本経済	参考文献①の第2章の1節
	13	通商問題の変遷	参考文献①の第6章の1節
	14	地域経済統合	参考文献②の第3章の1節
15	国際経済の現状と課題	参考文献②の第4～第7章	
16	総括、 期末テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「ゼミナール国際経済」伊藤元重(著)日本経済新聞社出版社②私たちの「国際経済」(編)東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス③「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ④「ゼミナール日本経済」三橋規宏・内田茂男・池田吉紀(著)日本経済新聞出版社。⑤「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。

学びの手立て	履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するために隔週ごとの小テストを行います。毎回の講義を集中して聞きノートを取ること。③テキストは使用せず、講義のコンテンツは板書とプリントで構成されますが、私たちの今の生活と未来の日本経済のゆくえにも関連すると思われる国際経済動向を学ぶことになるため関心を持って講義を聞くこと。④履修生の専攻科目が多岐にわたる共通科目のため、抽象的な経済用語や経済理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、履修学生は講義外でも私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関連する新聞記事を読むこと。
--------	--

評価	小テスト(計6回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、上位科目としては、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学・II」、「国際経済論I・II」、「貿易論I・II」、「国際金融論I・II」
-------	--

※ポリシーとの関連性

法学部専門科目の「国際政治学」と関係が深いので、より深く勉強したい学生は合わせて受講することをおすすめします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際政治	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 章子	1年	ptt989@okiu.ac.jpまでメールください。	

学びの準備	ねらい 本講義は、国際政治が外交、安全保障、社会、経済、その他の様々なグローバル・イシューに広く関わることを理解してもらうことを目的としています。地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問を復習テストとして使用するので、試験対策としても有効です。	メッセージ 受講する学生の皆さんには、知識の習得以上に、国際政治への広い関心を持ってくれること、物事を様々な角度から柔軟に考えられるようになることを期待しています。時事問題を取り入れ、映画や音楽のPV、ドキュメンタリーの映像を短い時間で流したり、沖縄の魅力を外の目から紹介したりと、講義に色々な工夫をこらしていきます。
	到達目標 毎回の講義で話した内容に沿って行う復習テストで、正確に解答できるようになることを望みます。使用する問題は地方公務員試験・沖縄県職員試験・教員試験などの国際関係の過去問ですので、最初は正誤問題に慣れなくて苦労する学生もいると思います。問題を解くための考え方を毎回解説しますので、それを自分のものとしてほしいです。身についたかどうかは、期末試験で判断します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	近代国家の条件(1) 主権	
	2	近代国会の条件(2) nation	復習テストの見直し
	3	近代国家の条件(3) 領土	同上
	4	非政府組織(1) 国連と国際機関	同上
	5	非政府組織(2) NGO	同上
	6	リアリズムの時代：勢力均衡と安全保障のジレンマ	同上
	7	リベラリズムの模索と限界	同上
	8	冷戦と脱植民地化	同上
	9	冷戦後の国際紛争	同上
	10	グローバル市場経済の発展	同上
	11	多国籍企業	同上
	12	グローバリゼーションと貧困	同上
	13	移民・難民問題	同上
	14	人権問題	同上
	15	環境問題	同上
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：ロビン・コーエン／ポール・ケネディ 『グローバル・ソシオロジー I—格差と亀裂』 平凡社、2003年		
	学びの手立て 教員が一方的に講義を行うのではなく、復習テストや講義中の応答を通じて、受講者一人ひとりに考えてもらうので、寝るだけ、友達と話すか携帯をいじるだけ、ノートをとるだけの講義態度では不可とします。		
	評価 毎回講義の冒頭と最後に復習テストを行い、最後の方の復習テストは回収することで、出席状況と授業参加姿勢を見ます。期末に行うテストは、復習テストの中から出題します。平常点70%、期末試験30%の総合評価となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目：国際政治学
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1年	ppt987@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上での、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。	前期では戦争に焦点をあてて「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。
到達目標	目標① 平和学の歴史を把握することができる。 目標② 主要な平和学の理論を理解する。 目標③ 国際平和学の各基礎理論を説明できる。 目標④ 基本の理論を用いて国際問題を分析できる。 目標⑤ 国家の外交政策と国内政策の概要を説明できる。 目標⑥ 安全保障問題と平和の争議を説明できる。 目標⑦ インターネットや新聞等で平和問題に関わる事柄の情報収集をすることができる。 目標⑧ 時事問題に関して授業中発言することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクションー「平和」ならびに「平和学」とは何か	
	2	平和学の形成と発展①	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力
	3	平和学の形成と発展②	ヨハン・ガルトウングの構造的暴力
	4	沖縄で国際平和学を学ぶ①	沖縄の近代史
	5	沖縄で国際平和学を学ぶ②	沖縄戦
	6	沖縄で国際平和学を学ぶ③	映画『沖縄／大和』
	7	レポート課題設定	
	8	戦争責任者の問題	伊丹万作「戦争責任者の問題」
	9	人間の安全保障①	人間の安全保障
	10	人間の安全保障②	人間の安全保障
	11	沖縄人の権利①	翁長知事の国連人権理事会での発言
	12	沖縄人の権利②	翁長知事の国連人権理事会での発言
	13	沖縄人の権利③	基地引き取り運動
	14	安保法制と在沖米軍基地問題①	安保法制
15	安保法制と在沖米軍基地問題②	安保法制	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考文献：石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、ヨハン・ガルトウング著、高柳先男、塩屋保、酒井由美子訳『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年など

学びの実践	学びの手立て
	新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学 I」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞って講義し、「国際平和学 II」では、その理論を踏まえて世界の「暴力」や「紛争」の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。

学びの実践	評価
	出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%） レポート：3回（1000字X2、2000字X1）。沖国ポータルから提出。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：「国際平和学II」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-秋山 道宏	1年	授業終了後に教室にて受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨年9月、安保関連法（戦争法）の制定が強行されました。この戦争法は、立憲主義など民主主義のあり方だけでなく、これからの沖縄や日本をめぐる「平和と安全保障」のあり方をも大きく変えようとしています。この授業では、「武力によらない平和」をめざす視点から、戦争法の強行に至る歴史的な背景とこれからの展望について、周辺諸国やアメリカとの関わりも含めて考えていきます。</p>	<p>「いま沖縄や日本の平和をめぐるなにが起こっているのか。目の前の現状をどのように考え、どのように行動していったらいいのか」という疑問を抱き、歴史的、社会的な背景も含めて考えてみたい学生の受講を期待しています。</p>
到達目標	<p>① わたしたちの置かれている「平和と安全保障」の現状について、歴史的、社会的な背景にもとづいて理解することができる。</p> <p>② ①によって、これからの「平和と安全保障」について考えることができ、また、周辺諸国の人びととの関係づくりなど実践的な課題において必要な視点を獲得することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。沖縄と日本をめぐる「平和と安全保障」の現状。	シラバスを事前に読んでおくこと。
	2	「平和と安全保障」のいま①安保法制と「積極的平和主義」を考える。	テキスト予復習（Ⅰの1、2）。
	3	「平和と安全保障」のいま②辺野古新基地建設の現状と歴史的背景。	テキスト予復習（Ⅰの4）。
	4	「平和と安全保障」のいま③「テロとの戦い」のなかでの「平和と安全保障」。	テキスト予復習（Ⅰの5）。
	5	「平和と安全保障」のいま④軍事と経済。武器輸出政策のねらい。	テキスト予復習（Ⅰのコラム2）。
	6	「平和と安全保障」の歴史①戦後の国際関係の出発点と「冷戦」のはじまり。	テキスト予復習（Ⅱの1～3）。
	7	「平和と安全保障」の歴史②なぜ沖縄に基地が集中したのか？	テキスト予復習（Ⅱの4～7）。
	8	「平和と安全保障」の歴史③「平和国家」の内実（憲法9条と自衛隊）。	テキスト予復習（Ⅱの8～9）。
	9	「平和と安全保障」の歴史④グローバル化による安全保障の変化。	テキスト予復習（Ⅱの10）。
	10	「平和と安全保障」の展望①領土問題はいつか解決できるか。	テキスト予復習（Ⅲの1）。
	11	「平和と安全保障」の展望②より良い近隣諸国との関係づくりとは？	テキスト予復習（Ⅲの3、5）。
	12	「平和と安全保障」の展望③ナショナリズム、宗教、ジェンダーから考える。	テキスト予復習（Ⅲの6）。
	13	「平和と安全保障」の展望④「武力によらない平和」はいつか可能か。	テキスト予復習（Ⅲの2、7）。
	14	沖縄から「平和と安全保障」を考える。	授業内容の復習。
15	授業全体のまとめ。レポートの提出。		
16	補講等、調整日。		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストとして以下を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原渉・城秀孝・布施祐仁・真嶋麻子編著『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2016年、定価1,600円（税抜）） <p>参考文献や資料は授業で随時提示しますが、学習を深める観点から二冊だけ提示しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石原昌家・仲地博・C.ダグラス・ラミス編著『オキナワを平和学する！』（法律文化社、2005年） ・日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』（法律文化社、2014年）
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え</p> <p>授業もコミュニケーションの一つです。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中でより良い学習ができることを意識しましょう。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、授業の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止します。</p> <p>学びを深めるために</p> <p>新聞を日常的に目を通すことや世界各地のメディアで日本がどのように報道されているのかをみることで、授業で取り上げた内容をより深く理解することができます</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>(1) 出席 (20%) ・ 授業への参加姿勢 (30%) …毎回、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらい、出席および参加姿勢（授業内容の理解）をみます。</p> <p>(2) 学期末レポート (50%) …授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解度をみます。</p> <p>詳細については初回のガイダンスにてお知らせします。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>授業を通して関心をもったテーマについて、学びを継続していきましょう。後期に開講する「国際平和学Ⅱ」や他の「国際理解科目群」の関連科目の受講をおすすめします。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 尚子	1 年	ppt987@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上で、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。	国際社会の動向を知り、「平和」とは何かを考えます。また、沖縄で国際平和学を学ぶ意義を実践的に考えていきます。
到達目標	目標① 身近な問題を通して国際社会の課題を考えられるようになる 目標② 国際社会の問題を通して身近な問題を考えられるようになる。 目標③ 身近な問題を説明できる 目標④ 国際社会の課題を説明できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション——国際平和学と「私」	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力
2	平和って誰がつくるの？	ヨハン・ガルトゥングの構造的暴力	
3	5つの紛争解決の方法—トランセンド法から—	ヨハン・ガルトゥングの紛争解決	
4	コミュニティと平和①	構造的暴力	
5	コミュニティと平和②	構造的暴力	
6	平時における「平和」とは	構造的暴力	
7	レポートの課題設定		
8	身のまわりにある差別問題①	身近な差別問題	
9	身のまわりにある差別問題②	身近な差別問題	
10	身のまわりにある差別問題③	身近な差別問題	
11	「言語」と平和①	うちなーぐち	
12	「言語」と平和②	うちなーぐち	
13	軍事基地と人権①	先住民族の権利	
14	軍事基地と人権②	先住民族の権利	
15	軍事基地と人権③	先住民族の権利	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。プリントを配布します。	
学びの手立て	新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて世界の「暴力」や「紛争」の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。		
評価	出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。 出席・授業参加姿勢（30%）、レポートなど（40%）、期末レポート（30%）。沖国ポータルから提出。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	国際社会の問題を身近な問題とひきつけて考えることができる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際平和学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-秋山 道宏	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 平和学のめざす「平和」とは、戦争のない状態だけでなく、人種・宗教・性別などによる差別や、格差・貧困のない状態を言います。この授業では、こういった「平和」を脅かす原因として、新自由主義化を伴うグローバル資本主義の展開と、戦争へと向かおうとする新たな帝国主義について、その現状と仕組みについて考えていきます。	メッセージ 「いま世界のさまざまな国や地域において、なにが起こり、なにが人びとを苦しめているのか」について関心をもち、歴史的、社会的な背景も含めて考えてみたい学生の受講を期待しています。
	到達目標 ①世界各地で起こっている出来事やニュースに関心をもち、わたしたちの生活とのつながりを考えることができるようになる。 ②世界で起こる紛争やテロについて、人種や宗教といった原因だけに単純化して捉えず、歴史、文化および社会構造から複眼的に捉えることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス。現代において「平和」を脅かす原因とはなにか。
	2	格差・貧困とグローバリゼーションを考える。映像視聴
	3	格差・貧困とグローバリゼーション①資本主義の歴史と新自由主義。
	4	格差・貧困とグローバリゼーション②惨事便乗型資本主義の正体。
	5	格差・貧困とのたたかい①占拠と民主主義-我々は99パーセントだ！
	6	格差・貧困とのたたかい②反グローバリズム運動、地域社会の自治。
	7	民主主義とグローバリゼーション①「アラブの春」以後の中東と民主主義。
	8	民主主義とグローバリゼーション②香港と若者の運動。雨傘革命とはなにか。
	9	民主主義とグローバリゼーション③スコットランド住民投票を考える。
	10	現代の戦争と帝国主義①パレスチナから考える現代の戦争と占領。
	11	現代の戦争と帝国主義②日米軍事同盟強化の問題と現代の戦争。
	12	現代の戦争と帝国主義③核兵器の現状と新たな兵器の登場。
	13	日本における「戦争できる国づくり」の現状と対抗運動。
	14	沖縄の「いま」を通して国際平和学を学ぶ。
	15	授業全体のまとめ。レポートの提出。
16	補講等、調整日。	
		時間外学習の内容
		シラバスを事前に読んでおくこと。
		事前配布資料に目を通す。
		講義の復習。
		同上
		同上
		講義の復習およびテーマの復習。
		講義の復習。
		同上
		講義の復習およびテーマの復習。
		講義の復習。
		同上
		講義の復習およびテーマの復習。
		講義の復習。
		講義全体の復習。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは指定しません。必要に応じて資料を配布します。 参考文献として以下の本を挙げておきます。 ・新井大輔・柴田努・森原康仁編著『図説経済の論点』（旬報社、2015年） ・石原昌家・仲地博・C.ダグラス・ラミス編著『オキナワを平和学する！』（法律文化社、2005年） ・梶原渉・城秀孝・布施祐仁・真嶋麻子編著『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』（大月書店、2016年）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え 授業もコミュニケーションの一つです。周囲の受講生や教員との信頼関係で成り立ち、その中でより良い学習ができることを意識しましょう。受講中の私語や携帯電話・スマートフォンの使用など、授業の進行や周囲への迷惑となる行為は禁止します。 学びを深めるために 新聞の国際面に日常的に目を通すことや世界各地の放送局からのニュースをみることで、授業で取り上げた内容をより深く理解することができます。
-------	---

学びの実践	評価 (1) 出席 (20%) ・ 授業への参加姿勢 (30%) …毎回、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらい、出席および参加姿勢 (授業内容の理解) をみます。 (2) 学期末レポート (50%) …授業で扱ったテーマに関連する課題を示し、授業内容についての理解度をみます。 詳細については初回のガイダンスにてお知らせします。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業を通して関心をもったテーマや地域について、学びを継続していきましょう。「国際理解科目群」の関連科目の受講をおすすめします。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際理解課題研究 I	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 ヒョンジョン	3年	hlee@okiu.ac.jp 授業終了後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面でも欠かせない韓国に焦点を当てる。両国家間では政治・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年は「韓流」というサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。講義では、韓国の歴史・社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較・考察することで、日韓の真の相互理解について考える。</p>	<p>皆さんはニュースなどを通して、大衆文化面または人的交流面では友好に見える日韓関係が、政治・歴史的な面で一気に冷めてしまう現状を感じていませんか。大衆文化的な面だけにとらわれない、または歴史的な面だけにもとらわれない、日韓の真の相互理解のためには、如何なる姿勢と能力が必要であるかをみんなで考えていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を客観的にみつめる力を持ち、自文化を再認識する。 ・興味のあるテーマについて深く考察し、論文としてまとめていく。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	
	2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	
	3	韓国の社会1「生活・経済」	グループ発表（1回目）準備
	4	韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」	グループ発表（1回目）準備
	5	韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」	グループ発表（1回目）準備
	6	グループ発表と討議	
	7	韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」	グループ発表（2回目）準備
	8	韓国の文化2「衣・食・住」	グループ発表（2回目）準備
	9	韓国の文化3「伝統から現代へ」	グループ発表（2回目）準備
	10	グループ発表と討議	
	11	日韓相互理解1「韓国における日本観」	グループ発表（3回目）準備
	12	日韓相互理解2「日本における韓国観」	グループ発表（3回目）準備
	13	日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」	グループ発表（3回目）準備
	14	グループ発表と討議	
	15	前期のまとめ	
	16	後期の流れとテーマ設定に関する討議	テーマ設定のための文献調査
	17	研究調査の方法と論文作成について	テーマ設定のための文献調査
	18	テーマ設定と自己計画シート作成	
	19	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	20	文献探索と発表・討議	先行研究のまとめ
	21	計画遂行における見直し1	先行研究のまとめ
	22	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	23	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	24	テーマに沿った調査報告	調査準備と実行
	25	計画遂行における見直し2	論文作成
	26	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	27	調査結果の分析とまとめ	論文作成
	28	研究結果の発表	最終発表の準備
	29	研究結果の発表	最終発表の準備
30	研究結果の発表		
31	後期のまとめ・自己評価		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テーマに合わせて随時プリントを配布する。</p> <p>北尾謙治 他 (2005) 『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』 ひつじ書房</p> <p>小此木政夫 他 (2012) 『日韓新時代と東アジア国際政治』 慶應義塾大学出版会</p> <p>その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自がテーマを設定し論文を作成するという前提で受講すること。 ・前期はグループ発表を通して協同のなかで自分の役割を果たすこと、後期は自己計画シートを作成しながら自分のテーマを積極的に遂行していくことを重視する。
	<p>評価</p> <p>授業参加度 (30%) とグループまたは個人発表・課題・論文作成 (70%) などに合わせて評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語を受講したことが無い学生は、ことばを通してその言語を使用する社会への理解を深めるために、卒業前に韓国語を受講する機会を持つことを勧める。 ・自分のテーマが卒業論文と関連を持つ場合は、より考察を深めてほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前原 直子	1年	ptt756@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	21世紀は一方ですますグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報の地域や国境を越える移動が活発化しているが、他方で、民族や宗教、言語、文化の違いによる対立も目立っている。本授業では、「国民」や「民族」の枠組みがいつ、どのように形成されたか歴史的に振り返り、私たちの差異をめぐる様々な思い込みを内省しつつ、現代日本・沖縄における多文化共生社会への課題を探る。	世界の様々な国や日本、そして沖縄の事例をとおして、ナショナリズムやエスニック問題の基礎を学びます。自分で文献を読み、それについてグループで話し合い、学び合い、自分の言葉でまとめ、発表する力を少しずつ育てましょう。
到達目標	①近代国家および「国民」や「人種」の枠組みがいつ、どのように始まったのか理解し、報告することができる。 ②アジアやアフリカ、欧米諸国におけるエスニック紛争や対立について、いくつかの事例の歴史的・社会的な背景を理解し、報告することができる。 ③欧米諸国や日本（および沖縄）における多文化主義について、歴史的・社会的な背景を理解し、報告することができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	「われわれ」と「かれら」を区別する差異はいかにつくられるのか：ヘイトスピーチを例に	文献抜き刷り 練習問題
	3	ヨーロッパにおける主権国家体制の始まり	〃
	4	アメリカ独立革命	〃
	5	フランス革命とヨーロッパ	〃
	6	アフリカ分割と「人種」の線引き	〃
	7	日本における近代国家の形成	〃
	8	中間テスト	〃
	9	国民国家思想の世界的な広がり：インド	〃
	10	国民国家思想の世界的な広がり、それに伴うエスニック紛争の広がり	〃
	11	エスニック少数派の地位向上運動—アメリカ合衆国	〃
	12	北アイルランド紛争とその後	〃
	13	多文化主義の始まり	〃
	14	日本における多文化共生の課題	〃
15	まとめ	復習	
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	主に以下から抜き刷りを配布する。①大澤真幸・姜尚中（編）『ナショナリズム論・入門』有斐閣 2009年 ②野村達郎『「民族」で読むアメリカ』講談社 1992年 ③ニール・ファーガソン『文明』勁草書房 2012年 ④小熊英二『〈日本人〉の境界』新曜社 1998年 ⑤古田元夫『アジアのナショナリズム』山川出版社 1996年 ⑥松田素二『アフリカ社会を学ぶために』世界思想社 2014年 ⑦前山隆『個人とエスニシティの文化人類学』御茶の水書房 2003年 ⑧関根政美『多文化主義社会の到来』朝日新聞社 2000年 ⑨毛受敏浩・鈴木江里子（編）『「多文化パワー」社会—多文化共生を超えて』明石書店 2007年

学びの手立て	①毎回、予習として課題（配布資料を読み、プリントの問題に答えるもの）を出す。授業で行うグループ・ディスカッションと発表のために必要な課題なので、必ず取り組むこと。 ②欠席した場合も、課題の内容を各自で確認し、取り組むこと。（配布資料は、非常勤メールボックス室に保管します。） ③欠席した日に課題を提出できない場合、次回の授業が始まる前までに課題を提出すること（emailまたはメールBOXにて受け付けます）。
--------	--

評価	課題提出（ほぼ毎回）・・・40% テスト(中間・期末)・・・60% *出席が3分の2に満たない・中間・期末テストを受けない場合、「不可」となります。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「アジア研究Ⅰ、Ⅱ」「ミクロネシア研究Ⅰ、Ⅱ」「国際平和学Ⅰ」「ヨーロッパ研究Ⅰ」「ラテンアメリカ研究」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多民族論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	1年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This course provides an overview and examination of anthropological and sociological theories related minority groups within larger societies, with special focus on immigrant groups.</p>	<p>出席確認はeラーニングシステムを使用します。第一回目の講義の際、eラーニングシステムの登録方法を説明し、一斉に登録を行います。よって、第1回目の講義に出席しない学生は、eラーニングシステム登録は各自の責任によって行うことになります。</p>
到達目標	多文化主義の問題について基礎的な理論を探る。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> ・eラーニングシステムの登録、オリエンテーション、講義概要、マイノリティーのタイプ 基本概念の定義を探る：人種、民族、エスニシティ、マイノリティー アメリカ合衆国、イギリス、カナダと日本のマイノリティーの比較 ベルカーブの議論 マイノリティーの心理を探る アイデンティティー：エミクとエティック エスニックグループとエスニック境界理論 メルティングポットとサラダボール A+B+C=A、または A+B+C=D 同化と社会文化的な多元主義 モデルマイノリティー 移民と国家：外国人労働者、永住権、国籍、市民権 移民の言語と教育 民族紛争と民族浄化 グローバル化とエスニックマイノリティー 移民が日本を救う、移民が日本をダメにする
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Werner Sollors, Theories of Ethnicity: A Classical Reader Marcus Banks, Ethnicity: Anthropological Constructions Brettell & Hollifield, Migration Theory: Talking across Disciplines</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ディスカッションの積極的な参加は高く評価する</p>
	<p>評価</p> <p>ディスカッションの参加 50% テスト・レポート 50%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア研究 I-II、ミクロネシア研究 I-II、国際平和学 I、ヨーロッパ研究 I、ラテンアメリカ研究</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 ミクロネシアに対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロネシア研究Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在、ミクロネシア（キリバス、ナウルを除く）と呼ばれている地域は、スペイン、ドイツ、日本、アメリカが統治していた。日本は第一次世界大戦後、国際連盟委任統治領としてこの地域を統治していた。本講義では、ミクロネシアの歴史、生活文化、現代社会について概説し、ミクロネシアと日本の関係について考える。また、ナウル共和国、キリバス共和国と日本の関係にも触れる。	かつて沖縄から多くの人々が、「移民」としてミクロネシアへ渡り、暮らしていました。当時の在住邦人の6割は沖縄出身者でした。これら「南洋移民」の関係者は、現在でも年一度「慰霊と交流」の度を続けています。本講義をとおしてミクロネシア地域に興味をもってくれることを期待しています。
到達目標	ミクロネシアの文化・歴史等について学ぶと同時に日本、特に沖縄との関係を学ぶことができる。ミクロネシアを理解することで、沖縄のことも深く理解することになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
2	ミクロネシアの概要		
3	ミクロネシアの地理と自然環境	関連論文等を紹介する。以下同様	
4	ミクロネシアの地理と自然環境		
5	ミクロネシアの歴史		
6	ミクロネシアの歴史		
7	ミクロネシアの歴史		
8	テスト		
9	ミクロネシアの生活文化		
10	ミクロネシアの生活文化		
11	ミクロネシアの現代社会		
12	ミクロネシアの現代社会		
13	ミクロネシアと日本		
14	ミクロネシアと日本		
15	ミクロネシアと沖縄		
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。		
	学びの手立て 私語等、講義の妨害になる行為は認めない。		
	評価 講義でのリアクションペーパー等を提出してもらおう。それにより出席・講義理解状況等を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としてミクロネシア研究Ⅱの履修を薦める。
-------	---

※ポリシーとの関連性 ミクロネシアに対する理解を通じて、大学生としての必要な教養を深めていく。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロネシア研究Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロネシアと日本の歴史的な関係は、明治以前までさかのぼることができる。明治以前のミクロネシアと日本の関係は、個人の漂流、捕鯨、交易などであった。官民レベルでミクロネシアに関心をもたれたのは、明治に入ってからである。最も日本とミクロネシアと関係が深くなるのは、第一次世界大戦後である。本講義ではミクロネシアと日本の関係を「南洋移民」を通して考える。</p>	<p>かつて沖縄から多くの人々が、「移民」としてミクロネシアへ渡り、暮らしていました。当時の在住邦人の6割は沖縄出身者でした。これら「南洋移民」の関係者は、現在でも年一度「慰霊と交流」の度を続けています。本講義をとおしてミクロネシア地域に興味をもってくれることを期待しています。</p>
到達目標	<p>ミクロネシアの文化・歴史等について学ぶと同時に日本、特に沖縄との関係を学ぶことができる。 ミクロネシアを理解することで、沖縄のことも深く理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	ミクロネシアの概要	
3	ミクロネシアの宗主国の変遷	関連論文等を紹介する。以下同様	
4	スペイン・ドイツのミクロネシア統治		
5	テスト		
6	日本のミクロネシア統治		
7	日本の「南洋」関与		
8	南洋移民の展開Ⅰ		
9	南洋移民の展開Ⅱ		
10	南洋移民の展開Ⅲ		
11	ミクロネシアの戦争		
12	テスト		
13	戦後のミクロネシアーアメリカ統治ー		
14	ミクロネシアと沖縄		
15	ミクロネシアの現在		
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特になし。講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。ビデオ等の画像等も使用する。</p>		
学びの手立て	<p>私語等、講義の妨害になる行為は認めない。</p>		
評価	<p>講義でのリアクションペーパー等を提出してもらおう。それにより出席・講義理解状況等を把握し、レポート、テスト等を総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>連科目としてミクロネシア研究Ⅰの履修を薦める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	1年	授業時にお知らせします。	

学びの準備	ねらい ドイツ語圏はヨーロッパの中で存在感を増しつつある地域のひとつである。このドイツ語圏と私たちが住んでいる日本との関係を「鍵」にして、ドイツ語圏の歴史、文化、社会を読み解く。	メッセージ 授業の中でコメントやリアクション・ペーパーの提出を求められることがある。受講者は授業を聴くだけでなく、自分なりの考えをまとめて言語化してほしい。
	到達目標 講義を通じて次の点を学習する。(1) ドイツ語圏の歴史、文化、社会について知る。(2) ドイツ語圏と日本の関係を学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	「ドイツ語圏」とは
	3	『東方見聞録』の影響：中世
	4	キリスト教の世紀：宗教改革の時代
	5	オランダ商館の時代：初期近代
	6	ドイツ語圏からの来日者たち：三十年戦争の時代
	7	ケンペルの来日：新旧時代の狭間期
	8	王侯貴族の東アジア熱：絶対主義の時代
9	儒教とキリスト教の対決：啓蒙主義への道	
10	日本イメージの転換：啓蒙主義の時代	
11	シーボルトの来日：ドイツ統一の道程	
12	ドイツ人の来日者たち：ドイツ帝国の成立	
13	戦争と文化交流：第一次大戦	
14	二つの戦後：第二次世界大戦とその後	
15	現代の日本体験：21世紀	
16	学期末試験	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など	
	テキスト：指定しない。 参考文献：坂井榮八郎『ドイツ史10講』（岩波書店 2003年）。南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』（ミネルヴァ書房 2016）。 資料：授業時に随時紹介する。	
	学びの手立て	
	資料がある場合は、それを事前に読み、自分なりに考えをまとめてくること。 私語は他の受講者の迷惑となるため、場合によっては退室を求められることがある。各人の良識あるふるまいを期待する。	
	評価	
	平常点（60%）と学期末試験（40%）。平常点は出席、コメント、リアクションペーパーによる。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ヨーロッパ研究 II
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヨーロッパ研究Ⅱ	後期	木4	2
	担当者 藤波 潔	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiui.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、ヨーロッパの中でも特有の立場に立つイギリスに焦点を当て、イギリスの社会や文化の特徴を歴史的に理解することを目的とする。とくに、「地域」「王室」「宗教」「帝国」をキーワードとして、講義と演習を織り交ぜながら、授業を展開する。その際、新聞記事や映画、イラスト、小説などを題材として用い、多用な観点から、ヨーロッパの中でイギリスを位置づけることをめざす。	イギリスという国家に関する知識を増やすことが目的ではありません。イギリスを多面的に理解することを通じて、自分たちの暮らす地域を含めた、さまざまな地域のあり方について考える視点や意識を持ってもらえるようになって欲しいと思います。
	到達目標	
	(1) 「イギリス」に関係する人物や地域について、「イギリス」の独自性との関わりで説明することができる。 (2) ヨーロッパの中における「イギリス」という地域(国家)の独自性を、歴史的な背景から理解することができる。 (3) 資料・史料から読み取れることを、自分の言葉で表現できる。 (4) 主体的な意欲に基づき、「イギリス」という地域について学ぼうとする姿勢を有することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	ワークシートの作成・提出
	2	現代の「イギリス」①：英国「王室」はどんな存在か？	ワークシートの作成・提出
	3	現代の「イギリス」②：英国を構成する「地域」の特徴は何か？	ワークシートの作成・提出
	4	現代の「イギリス」③：英国社会を構成する「人びと」は、どんな人たちか？	ワークシートの作成・提出
	5	ヨーロッパの中の「イギリス」①：「英国人」はどこから来たか？	ワークシートの作成・提出
	6	ヨーロッパの中の「イギリス」②：英国の統一国家を実現したのは、どんな人びとか？	ワークシートの作成・提出
	7	「イギリス」の王室と宗教①：英国王室とフランスとの関わりとは何か？	ワークシートの作成・提出
	8	「イギリス」の王室と宗教②：英国王室の「自立」とヨーロッパ諸国との関わりとは何か？	ワークシートの作成・提出
	9	「イギリス」の王室と宗教③：英国の「宗教改革」とは、どんな改革だったのか？	ワークシートの作成・提出
	10	「イギリス」の王室と宗教④：英国国教会とカトリックとの関係はどうなったのか？	ワークシートの作成・提出
	11	「イギリス」の王室と宗教⑤：エリザベス1世の統治が生み出した「英国」とは何か？	ワークシートの作成・提出
	12	大英帝国の社会と文化①：「大英帝国」の特徴とは何か？	ワークシートの作成・提出
	13	大英帝国の社会と文化②：ヴィクトリア朝時代の特徴とは何か？	ワークシートの作成・提出
	14	大英帝国の社会と文化③：『シャーロック・ホームズ』の中に表れる大英帝国とは何か？	ワークシートの作成・提出
15	まとめ：ヨーロッパにおける「イギリス」の位置づけとは何か？	ワークシートの作成・提出	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定のテキストは使用しない。 主な参考文献は下記の通り。 ①近藤和彦『イギリス史10講』（岩波書店、2013年）、②君塚直隆『物語イギリスの歴史（上・下）』（中央公論新社、2015年）、③笠原敏彦『ふしぎなイギリス』（講談社、2015年）、④指昭博（編著）『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）、⑤黒岩徹・岩田託子（編）『ヨーロッパ読本 イギリス』（河出書房新社、2007年）、ほか</p>

学びの手立て	<p>① 履修の心構え 異文化を理解するためには、自分と異なる他者への関心を持つことが不可欠です。ニュースや報道などを通じて、ヨーロッパやイギリスに関する情報に日常的に触れるようにしてください。</p> <p>② 学びを深めるために 参考文献の多くは、一般向けに書かれた新書です。本講義で取り扱う内容の理解を深めるためにも、できるだけ読むようにしてください。</p>
--------	---

評価	<p>到達目標(1)の評価 : レポート (60%) 到達目標(2)(3)の評価 : ワークシートの内容 (25%) 到達目標(4)の評価 : ワークシートの提出 (15%) の総合評価とする。なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。 また、出欠は毎回必ずとる。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多用な異文化を理解するために、国際理解科目群のこの科目を履修した上で、その集大成として「国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ」を履修することを勧める。 また、国外での経験は、皆さんの視野を確実に広げることにつながるため、「海外語学・文化セミナー」に参加することも勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
到達目標	ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	配布資料を読み理解する。
	2	南アメリカの地理 (1)	ブラジルに関する発展学習。
	3	南アメリカの地理 (2)	アルゼンチンに関する発展学習。
	4	南アメリカの地理 (3)	ペルーに関する発展学習。
	5	中央アメリカの地理	中央アメリカに関する発展学習。
	6	ラテンアメリカの先史時代	紹介の資料を活用し発展学習。
	7	先スペイン期のメソアメリカ文明	メソアメリカについて発展学習。
	8	先スペイン期のアンデス文明	アンデス地域について発展学習。
	9	「発見」から征服・植民地時代前期 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習。
	10	植民地時代 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習。
	11	ラテンアメリカ諸国の独立 (1)	紹介の資料を活用し発展学習。
	12	ラテンアメリカ諸国の独立 (2)	紹介の資料を活用し発展学習。
	13	カリブ海諸国について	紹介の資料を活用し発展学習。
	14	ラテンアメリカの近代移民	紹介の資料を活用し発展学習。
	15	現代ラテンアメリカの諸問題	小テストを確認し期末試験の準備。
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など	毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。 授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。 参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。	
	学びの手立て	履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。 学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。	
	評価	毎回の小テスト52点 (4点×13回) と期末テスト48点の計100点で評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ラテンアメリカ研究	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲村 幸子	1年	授業終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現代のラテンアメリカ社会に起こる諸問題について関心を持ち理解を深めることは、世界情勢を正しく知るうえで必要なことです。	メッセージ 現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えると、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、地域に関する地理的、歴史的知識は不可欠です。
	到達目標 ラテンアメリカ社会でこれまでに起こったさまざまな出来事、そして現在進行形の事象について、地理的・歴史的知識をもとに基本となる用語を適切に用いながら、簡潔で正確な説明ができるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ラテンアメリカとは	配布資料を読み理解する。
	2	南アメリカの地理 (1)	ブラジルに関する発展学習。
3	南アメリカの地理 (2)	アルゼンチンに関する発展学習。	
4	南アメリカの地理 (3)	ペルーに関する発展学習。	
5	中央アメリカの地理	中央アメリカに関する発展学習。	
6	ラテンアメリカの先史時代	紹介の資料を活用し発展学習。	
7	先スペイン期のメソアメリカ文明	メソアメリカについて発展学習。	
8	先スペイン期のアンデス文明	アンデス地域について発展学習。	
9	「発見」から征服・植民地時代前期 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習。	
10	植民地時代 (スペイン領を中心に)	紹介の資料を活用し発展学習。	
11	ラテンアメリカ諸国の独立 (1)	紹介の資料を活用し発展学習。	
12	ラテンアメリカ諸国の独立 (2)	紹介の資料を活用し発展学習。	
13	カリブ海諸国について	紹介の資料を活用し発展学習。	
14	ラテンアメリカの近代移民	紹介の資料を活用し発展学習。	
15	現代ラテンアメリカの諸問題	小テストを確認し期末試験の準備。	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業でプリントを配布し、テキストは使用しません。授業の中で内容ごとに文献を紹介し、配布するプリントにも記載するので、それらを参照してください。参考文献として『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』増田 義郎 中公新書 1998年 を挙げます。		
	学びの手立て 履修の心構え 授業は講義形式で行います。 毎回、授業内容のまとめと確認のための小テストを行います。 学びを深めるために 授業の中で紹介された文献や参考となる資料を活用して、さらなる学習に努めてください。		
	評価 毎回の小テスト52点 (4点×13回) と期末テスト48点の計100点で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で得た知識や社会問題を考察する力を、地域社会の問題解決に活かせるように努める。
-------	--